

学校教育目標	自分らしさを認め合い、協力して課題に取り組める子
--------	--------------------------

めざす学校の姿	こどもが安心して楽しく学び合う学校 教職員がこどもの自分らしさを受け止め、支援できる学校 家庭・地域から信頼される学校	めざす子供像	㊦かよく思いやりのある子(徳) ㊦かんがえを深め学び続ける子(知) ㊦かんばりがきき、ねばり強い子(知)(徳)(体) ㊦たしもあなたも健康な子(体)
---------	---	--------	---

めざす子供像を実現するための今年度の経営の重点	(1) 学校の使命＝子供に生きる力を身に付けさせること (2) 学校の中をできるだけ見える化し、協働の意識を醸成する (3) 安心・安全な環境(学級) (4) 自己肯定感の醸成
-------------------------	---

【キャリア教育の全体目標】			
〈育成すべき基礎的・汎用的能力〉			
人間関係形成・社会形成能力 かかわる力	課題対応能力 挑戦する力	自己理解・自己管理能力 見つめる力	キャリアプランニング能力 つなげる力

A…85%以上 B…70%以上 C…50%以上 D…35%以上		児童		保護者		教職員	
評価項目		そう思う だいたいそう思う	自己 評価	そう思う だいたいそう思う	自己 評価	そう思う だいたいそう思う	自己 評価
学校目標	①目標をもち、粘り強く取り組んでいる。	89%	A	77%	B	83%	B
	②自分のよいところを知っている。	83%	B	86%	A	89%	A
	③学校生活を楽しく送っている。	96%	A	94%	A	90%	A
生活	④困ったことがあったときに、お家の人に相談できる。	87%	A	88%	A	89%	A
	⑤友達や地域の人に、自分からあいさつをしている。	88%	A	71%	B	39%	D
	⑥思いやりの気持ちをもって生活している。	91%	A	94%	A	83%	B
	⑦友達やクラス、学校のためになることを進んでしている。	83%	B	84%	B	89%	A
	⑧きまりを守って生活している。	93%	A	88%	A	67%	C
学習	⑨家庭学習に自分から進んで取り組んでいる。	84%	B	64%	C	72%	B
	⑩学習に真剣に取り組んでいる。	89%	A	80%	B	89%	A
	⑪自分の考えを進んで伝えている。	78%	B	71%	B	56%	C
	⑫教師や友達の話をしっかり聞いている。	97%	A	83%	B	56%	C
健康・安全	⑬給食を楽しみにしている。	93%	A	92%	A	100%	A
	⑭進んで運動したり、外で遊んだりしている。	81%	B	78%	B	89%	A
	⑮自分の体のことを考え、健康な生活を送っている。	89%	A	74%	B	89%	A

教職員評価

- ・子供たちが学校で楽しく過ごしている評価については、高評価が多かった。(項目②、③、⑦、⑬、⑭、⑮)
- ・あいさつやきまり、学習に関わる項目については、低評価が多かった。(項目⑤、⑧、⑪、⑫)

子供たちが普段の活動の中で見せるよい表われを認めている様子がわかる。反面、学習においては真剣に取り組むことができているが、子供の目指す姿の水準には達していない。今後も、学校での教育活動の精選や、授業改善等を積極的に行っていくことで、目指す姿に近付けるよう取り組んでいく。

自己評価の考察

第1回(7月)と第2回(12月)の学校評価の結果を比較すると、多くの項目で高評価が増えた。特に児童の評価は、15項目中14項目で評価の数値が上がった。

項目①②③の学校教育目標についての児童の自己評価が上がった。学校全体での取り組みやいろいろな行事等の充実感や達成感の成果が表れていると考える。

生活に関する、項目④⑥も高評価が増えた。困ったら誰かに相談することや、思いやりの気持ちを意識することなど、心の成長も伺える。学校では、「いじめ防止基本方針」に沿って、教育相談を行った結果、先生に相談できる児童が増えた。

項目⑨⑩⑪⑫の、学習に関わる項目において、低評価の項目があった。今年度の授業改善の中で、友達との関わりの中で主体的に学んでいくことを意識して取り組んでいる成果が出ている反面、自分の思いを伝えることや相手の話を聞くところに課題が見られる。

項目⑬⑭⑮の健康・安全についての項目は、全体的に高評価が増えている。給食の残菜がへるなど、食育が充実しているのを感じる。外遊びや健康に関する項目は、外で体を動かす児童が増えてきている。また、健康について考える時間を定期的に設定しているので、健康への意識が高まってきている。引き続き、学校での様子を丁寧に発信し続け、今まで以上に、学校・保護者・地域が連携して児童を見守る体制を構築していきたい。

学校関係者評価の結果(令和8年1月29日 第4回学校運営協議会)

「あいさつ」「自分の考えを言う」「しっかり話を聞く」などの評価で、子供と保護者、教職員の評価規準に違いがあることから、評価に認識のズレが生じていることが見えてきた。質問の項目の変更や評価規準の共通理解について熟議をすることができた。また、Chromebookの学校や家庭での使い方の課題について熟議し、Chromebookを今後の情報化の時代に向けて、有効活用して取り組んでいくことを確認した。それぞれの学年の発達に応じ、1学期から大きく成長していることが伝わってきた。昨年度より、あいさつ運動やクラブのボランティアの範囲が広がり、学校生活の充実につながっている。学校だより、CSだよりで、地域への発信もできている。来年度も、個人が参加しやすい学校支援活動を協議していく。

次年度に向けての改善方策

- ・学校の教育活動の精選を行い、児童の実態に合わせてより効果的で充実した教育活動が展開できるよう、計画を練っていく。
- ・教員が研修する時間を確保し、より充実した授業改善を実施していけるような環境を整備していく。
- ・学校、保護者、地域がより連携し合い、児童の成長のためになる活動を積極的に取り入れていく。
- ・「いじめ防止基本方針」を学校の実情に合わせて更新し、職員、保護者、地域に周知徹底する。